

## 【株式相場レポート】

### ～予想上回る決算がけん引～

	10日終値	前週末比
日経平均(円)	22,681.42	+142.30
ドル(円)	113.43-48	-0.58
NYダウ(ドル)	23,461.94	-77.25
長期金利(%)	0.035	-0.020
NY原油(ドル)	57.17	+1.53

※NYダウ・NY原油は9日終値、ドル・長期金利は10日15時現在

## 今週の総括

### ★先週に続き、好決算銘柄への物色が続く。高水準の米株価と原油価格も後押し

#### 今週のプラス材料

- ・2Q決算発表:最高益更新、上方修正や増配が相次ぐ
- ・NYダウが再び史上最高値更新
- ・原油価格が1バレル57~58ドルの高値圏へ

#### 今週のマイナス材料

- ・特になし  
(サウジ周辺の地政学リスク上昇は、本来ならマイナス材料だが、現時点では原油価格上昇が株価プラス材料)

今週の日経平均は、引き続き決算発表への反応を主体に上昇基調が続き、一時は23,000円台に到達した。

2Q決算発表がピークを迎えたが、先週に続き上方修正や増配が目立ち、それらの銘柄への物色が続いた。10月前半の16連騰時は東証1部売買代金は2兆円前後でそれ以前と変わらなかったが、この2週間は3兆円以上の取引日が続いており、9日や10日のように1日の中での振幅も大きくなっている。また、決算発表翌日の短期的な反応に留まらず、その翌日以降も上昇が続く銘柄が多いこと、時価総額数兆円クラスで個人にも外人にも知名度の高い銘柄への物色が目立つことが挙げられる。また、NYダウの史上最高値更新が今週も続いたことや、原油価格が先週後半から一段と高値圏で推移していることも相場の後押しとなっている。

業種別では、資源株の上昇が突出している。好決算が多かった商社、海運、電機、精密、化学、不動産等も強かった。一方、証券を除く金融株は引き続き弱い動きが続いている。米長期金利低下と米銀行株の不振の影響がありそう。また、下方修正銘柄が指数を押し下げたゴム、ガラス、非鉄なども弱かった。

## 来週以降の見通し

### ★もうしばらく高値が続くか

日経平均想定レンジ **21,500~23,500円**

#### 来週以降の注目材料

- ・2Q決算発表
- ・北朝鮮動向
- ・サウジアラビア情勢ならびに原油価格の動向
- ・金価格動向

#### リスク要因

- ・北朝鮮動向
- ・原油価格と為替市場の乱高下
- ・メガバンク株価のピークアウト

来週の日経平均は、もうしばらく高値圏での動きが続く可能性が高そうだ。

決算発表は10日時点までに約2,500社が発表、来週以降の発表予定は400~500社程度。このうち大型株のほとんどは低金利で収益低迷が続く金融株が中心で、決算にプラス面でのサプライズが期待しにくい。ただし、世界的に景気、為替、金利、資源価格などがいずれもプラス方向で安定していて、企業業績面からも市場心理面からもマイナスに働く材料が見当たらないため、大きく売られる可能性は低いだろう。

決算一巡後の次のイベントは12月の米FOMC(12/13予定)。利上げの有無と来年の金融政策についての発言が注目される。内容によっては、米金利上昇⇒もう一段の円安⇒株価上昇というシナリオが期待できる。

一方で気になるのが北朝鮮とサウジアラビアの動向。米大統領のアジア歴訪後、展開が変わるのかどうか。この数週間、北朝鮮の動きが見られないのが何となく不気味だ。また最近の原油価格上昇は産油国の減産や実需の増減よりは、サウジアラビア動向が不安視された側面が強く、不透明感がある。引き続き、市場心理のバロメーターである金価格の動きに注意したい。

次頁にコラム「徒然なるままに」

## 徒然なるままに

「プロの投資家」という言葉がある。一般的には、証券会社のアナリストや機関投資家、ヘッジファンドのファンドマネージャー等が当てはまる。(個人のデイトレーダーもある意味「プロ」かもしれないが、ここでは除外させていただく)

皆さんはどういうイメージをお持ちだろう。担当する業種や個別企業に関する知識が極めて豊富で、財務分析はもちろん、様々な高度な分析を駆使するスーパーマンを想像する方も多いのではないだろうか。

上場企業の経営者でもこうしたイメージを持つ人がいるようだ。10年ほど前のことだが、あるファンドがソース会社に敵対的買収を仕掛けたことがある。その過程で社長とファンド関係者が面会した際、ファンド代表がソースの作り方を知らなかったことで、社長が「そのような投資家に経営は任せられない」と発言したことが報道された。

おそらくソースの作り方を詳しく知ってるアナリスト・機関投資家はほとんどいないと思う。私が担当していた銀行に関しても、融資の審査実務や外国為替事務などを詳しく知る投資家はごく少数というかほとんどいなかった。アナリストも機関投資家も、実際に担当企業の最前線で働いた経験は無いし、企業を経営した経験もない。知らないのが当たり前で、その点は一般の個人投資家とあまり変わらないのだ。

しかし、「プロの投資家」という言い方は存在するし、金融商品取引法上も、「特定投資家」として一般投資家とは扱いが異なっている。ということだろうか。

「プロ」とは「資産運用のプロ」という意味である。つまり「株価予想のプロ」。株価予想のために必要なレベルの知識と分析力を備えているが、それ以上でもそれ以下でもない。業界や企業の分析も、消費動向や原材料市場の分析も、経営者や経営戦略の研究や株価そのものの分析も、全て「株価予想のため」である。業績と株価が関係ない場合は、極端だが財務分析が苦手でも通用するのである。その観点から言うと、ソースの作り方は株価予想にほとんど関係なさそうだ。だから、知らなくてもよいということになる。ちなみに「株価予想のプロ」は「資産運用を職業として株価予想をする」だけで「百発百中」ではない。これもまた「プロ」にまつわる誤解だろう。

## リスクおよび手数料等の説明

**株式取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。**

- 株式取引の委託手数料はインターネット経由の場合1日の約定代金の合計により決定し、100,000円(税抜)が上限です
- 上場有価証券等書面、取引規程、取引ルール等をご覧いただき、内容を十分ご理解のうえ、ご自身の判断と責任によりお申込みください
- 口座基本料は個人の場合には原則無料です  
※各種書面の郵送交付には、年間1,000円(税抜)をご負担いただく場合があります
- 本レポートは、当社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、その情報の正確性および完全性を保証するものではありません
- 本レポートは、お客様への情報提供を唯一の目的としたものであり、投資勧誘を目的として作成したものではありません
- 投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします
- 本レポートに掲載された情報の使用による結果について、当社が責任を負うものではありません
- 本レポートに掲載された意見や予測等は、レポート作成時点の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります
- 本レポートの一切の著作権は当社に帰属します。いかなる目的であれ、無断複製または配布等を行わないようお願いいたします

次回発行予定: 11月17日(金) 17:00以降

業者名等 松井証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号  
加入協会名 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会